

外国語活動学習指導案

枚方市立樟葉小学校

授業者 岡 清範

J T E 田畑 陽子

1. 日時 平成25年6月19日(水) 5校時 13:30~14:15
2. 場所 イングリッシュルーム(教室棟1F)
3. 学年・組 第6学年2組(男子17名、女子17名)
4. 単元名 Hi, friends! 2 Lesson 3 I can swim.

5. 単元の目標

- ①積極的に友達に「できること」を尋ねたり、自分の「できること」を答えたりしようとする。
- ②「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。
- ③言語や人、それぞれに違いがあることを知る。

6. 単元について

(1) 教材について

本単元は、“can”をテーマとしている。人は一人ひとり違っている。人によって「できること」もあれば、「できないこと」もある。また、「できる」「できない」と判断するときには、主観的な判断と客観的な判断の2つの判断のしかたがある。例えば、“Can you swim?”という問いに対して、「体育の授業の時25m泳げたから、できる」と答える児童もいれば、「あまり上手に泳げないからできない」と答える児童もいる。このような感じ方の違いを認め合う関係を大切にしていきたい。児童にとって、自分の得意なことを友だちに認めてもらうことは自己肯定感を育てることにつながる。また、「できること」を伝え合う中で、友だちの知らなかった一面を知ることができ、自分との共通点や違いに気づくこともできる。これらの取り組みを通して、さらにコミュニケーションが深まることを期待したい。コミュニケーション活動では、相手の話をしっかり聞こうとすることを大切にしたい。

(2) 児童について

本学級の児童は、昨年度から週1時間の外国語活動を通して、英語の基本的な挨拶や数唱、自分の気持ちや好みを伝えることを学習してきた。6年生になり、「Do you have “a”?»の学習を通して、アルファベットを中心に、世界には様々な文字言語があることを学習した。授業においては、チャンツやゲーム活動に積極的に参加する児童が多く、新しい友だちともすすんでコミュニケーションをとりながら外国語に慣れ親しんでいる。しかし、失敗を恐れて、積極的に活動に参加できない児童も見受けられる。そこで、指導者の発話内容を言語的には理解できなくても、表情やボディランゲージなどをヒントに内容を理解し、自分の考えなどを発表しようとする態度を養いたい。そのために、コミュニケーションをとる楽しさや、自分を表現できた時の喜びを児童が体験することを重視する。

(3)指導について

指導にあたっては、ゲームや歌を活用して慣れ親しむことを考えている。英語のゲームやチャンツでは、できるスポーツや楽器など身近な単語を用い、全員が発表や発言をする機会が与えられるようにしている。

普段の授業から、「よく聴く」「声をだす」「失敗を恐れず挑戦する」「推測する」「気持ちをこめる」ことを大切にして取り組んでいる。相手の表情をしっかり見て、あいづちをうったり、ジェスチャーを入れたりしながら、相手とのやりとりも楽しめるようにしたい。また、相手に伝えようとする気持ちを大切にするため、簡単な単語とジェスチャーで表現する機会を多く取り入れている。

7. 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 (関)	外国語への慣れ親しみ (慣)	言語や文化に関する気付き (気)
「できること」について、積極的に尋ねたり答えたりしている。	自分が「できること」を伝えたり、友だちに「できること」を尋ねたりする表現に慣れ親しむ。	日頃児童が遊んでいる遊びや、日本の伝統的な遊びと英語圏の遊びの中で用いられる表現の違いを知る。

8. 単元の指導計画

は、本時

	ねらい	主な学習活動 (●は評価する学習活動)	評価規準			評価方法
			関	慣	気	
1	いろいろな動作の英語表現を知り、表現に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな動作の英語表現を知る。 ○チャンツ“Can you swim?” ○ジェスチャーゲーム ○キーワードゲーム 	○		○	日本語と英語の音の違いに気づき、いろいろな動作の英語表現に慣れ親しもうとしている様子を観察。 (行動観察)
2	自分が「できること」を伝えるための英語表現を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○チャンツ“Can you swim?” ●自分の「できること」を表現する。 ●友だちの「できること」を聞く。 ○“Who am I?”ゲーム ○絵本で慣れ親しむ。 			○	自分が「できること」を伝えたり、友だちの「できること」を聞いたりしている様子を観察。 (行動観察)

3	友だちの「できること」を尋ねる表現を知り、慣れ親しむ。	○チャンツ“Can you swim?” ●スゴロクゲーム	○	“Can you... .?”の表現を使い、友だちと交流している様子を観察する。 (行動観察)
4	“I can... .” “Can you... ?”という表現に慣れ親しむ。 (本時)	○絵本で慣れ親しむ。 ●「できること」の仲間探しゲーム ●「できること」をジェスチャーで表現する。 ○振り返りを行う。	○	“I can... .” “Can you... ?”という表現を使って交流し、互いを認め合っている様子を観察する。 (行動観察) (振り返りカード)

9. 本時について

(1) 目標

“I can... .” “Can you... ?”という表現に慣れ親しむ。

	児童の活動	教員の支援		指導の留意点
		H R T	J T E	
導入	1. あいさつをする。 (曜日・天気を言う。) 2. Warm up “From head to toe” (I am ○○. Can you do it? I can do it.) 3. 復習と本時の語を確認する。 (Can you do this? Yes, I can. /No, I can't.) ※3人の先生のインタビューを見る。	Hello. (How are you?) What's the date today? What day is it today? How's the weather? Let's chant. Let's watch TV. Let's start the tape. (Can you do this?) No, I can't. But, I can do this.	Hello.(How are you?) Watch carefully. Wonderful.	絵本を提示する。 身近な先生のインタビューを聞くことで、“Can you do this?”の表現に慣れ親しませる。

展 開	<p>4. TT デモンストレーションを聞く。</p> <p>5. Interview game をする。 (I can do this. Can you do this? Yes, I can. / No, I can't.)</p> <p>(インタビュー内容をもとに、グループに分かれる。)</p>	<p>Repeat after her.</p> <p>Interview game の説明をする。 Let's start interview game.</p> <p>デモンストレーションを聞かせて、練習させる。</p> <p>Hello. I can do this. (動作) Can you do this?</p> <p>Thank you.</p> <p>Yes, I can./No, I can't. (サイン)</p> <p>You are welcome. Bye!</p> <p>Let's make groups.</p>	<p>Repeat after me. Can you do this? Yes, I can./No, I can't.</p> <p>Hello.</p> <p>Yes, I can./No, I can't. (サイン)</p> <p>You are welcome. I can do this.(動作) Can you do this?</p> <p>Thank you.</p> <p>Bye!</p>	<p>ジェスチャーを入れて、聞いたり、答えたりするために、“Can you do this?”の表現を取り入れた。</p> <p>制限時間内にできるだけ多くの人に、インタビューできるように助言する。</p> <p>インタビューを通して、できることの仲間探しをして、仲間ごとにグループを作らせる。</p>
ま と め	<p>6. 振り返りをする。 グループごとに発表する。 (I can do this.)</p> <p>7. あいさつする。</p>			<p>グループごとに“I can ～.”と言いながら、そのジェスチャーをさせる。</p> <p>Nice!や Good!などで気持ちを込めるようにさせる。</p>